

事業事前評価表

国際協力機構南アジア部南アジア第二課

1. 基本情報

国名：パキスタン・イスラム共和国（パキスタン）
案件名：第二次空港保安強化計画
The Project for Improvement of Airport Security (Phase 2)
G/A 締結日：2018年3月27日

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国におけるテロ対策・空港保安開発の現状・課題及び本事業の位置付け

パキスタンのテロ事件発生件数は年々減少傾向にあるが、国際空港は物流と人の移動を担う経済活動の拠点であることから、空港保安設備強化は、当国のテロ発生リスク軽減に向け、喫緊の課題となっている。

当国では、空港管理者である民間航空庁が、2015年に策定した「国家航空政策（National Aviation Policy 2015）」に基づき、テロ行為の標的となりやすい空港の国際的要件に準じた保安対策強化を進めている。近年脅威が増している旅客の受託荷物に隠された爆発物の検出をより確実に行うため、パキスタン国内の空港の手荷物及び車両用 X 線検査装置においても、国際民間航空機関（ICAO）が定める国際基準を満たすことが特に重視されている。

当国の主要国際空港のうち、カラチ、ラホール、イスラマバード空港においては、無償資金協力「空港保安強化計画」（2013年）（以下、「第一次空港保安強化計画」という）を通じ、各種検査装置を整備し、空港保安体制の強化が図られた。一方、ムルタン及びファイサラバード国際空港に関しては、中東諸国へ多数の航空便が発着し、また、両空港に持ち込まれる手荷物及び受託手荷物の検査レベルが低い。そのため、危険物等の持ち込み可能性の懸念から、国際基準を満たす検査体制を確立することが急務とされている。また、第一次空港保安強化計画の支援対象であったカラチ空港、及び建設が進められている新イスラマバード空港においても、旅客数増に伴う更なる保安体制強化の必要性の観点から、追加機材導入が不可欠である。

第二次空港保安強化計画（以下、「本事業」という。）は、当国の主要国際空港（カラチ、ムルタン、ファイサラバード、新イスラマバード）において、国際基準に基づく検査体制を確立し、パキスタンにおけるテロ発生リスクの低減に貢献するものであり、当国の開発政策においても優先度の高い事業と位置付けられる。

(2) テロ対策に対する我が国及び JICA の協力方針等と本事業の位置付け

対パキスタン・イスラム共和国国別援助方針（2012年4月）における重点目標として「国境地域などの安定・バランスの取れた発展」が定められ、テロ対策支援が主要な柱の一つとなっている。また、対パキスタン・イスラム共和国 JICA 国別分析ペーパー（2014年3月）において、「テロ対策」は重点課題であると位置づけられ、治

安関連施設、機材整備に対する支援を重視すると分析されており、本事業はこれら分析、方針に合致する。

また、本事業は、パキスタン主要国際空港において、空港保安機材を整備することにより、国際的要件を満たす空港保安体制の確立を図り、もってパキスタンにおけるテロ発生リスクの軽減を通じた社会の安定化に資するものであり、SDGs ゴール 16 「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会の促進」に貢献することが期待される。

(3) 他の援助機関の対応

2012年に英国が主要3国際空港（カラチ、ラホール、イスラマバード）に「拭き取り式爆発物検査装置（手荷物に残留する爆発物の成分から痕跡物を探知する装置）」の整備を支援。

3. 事業概要

(1) 事業目的

本事業は、主要国際空港（カラチ、ムルタン、ファイサラバード、新イスラマバード）において保安機材を整備することにより、空港保安体制の強化を図り、もってテロ発生リスクの低減を通じた社会の安定化に寄与するもの。

(2) プロジェクトサイト／対象地域名

- 1) カラチ国際空港／シンド州カラチ市
- 2) ムルタン国際空港／パンジャブ州ムルタン市
- 3) ファイサラバード国際空港／パンジャブ州ファイサラバード市
- 4) 新イスラマバード国際空港／パンジャブ州イスラマバード特別区

(3) 事業内容

1) 土木工事・調達機器等の内容

【カラチ：機材】受託手荷物爆発物検知装置 2 台【ムルタン：機材】受託手荷物爆発物検知装置 2 台、機内持ち込み手荷物爆発物検知装置 2 台、拭き取り式爆発物検知装置 2 台、乗用車両用 X 線検査装置 1 台、大型貨物車両用 X 線検査装置 1 台【ファイサラバード：機材】受託手荷物爆発物検知装置 2 台、機内持ち込み手荷物爆発物検知装置 2 台、拭き取り式爆発物検知装置 2 台、乗用車両用 X 線検査装置 1 台、大型貨物車両用 X 線検査装置 1 台【新イスラマバード：機材】大型貨物車両用 X 線検査装置 1 台

2) コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、調達監理。ソフトコンポーネントは実施しない。

(4) 総事業費

総事業費 2,421 百万円（概算協力額（日本側）：2,392 百万円、パキスタン側：29 百万円）

(5) 事業実施期間

2018年3月～2021年8月を予定（計42か月）。機材の供用開始時（2020年8月を予定）をもって事業完成とする。

(6) 事業実施体制

- 1) 事業実施機関：民間航空庁（Civil Aviation Authority: CAA）
- 2) 運営・維持管理機関：空港保安隊（Airport Security Force: ASF）

(7) 他事業、他援助機関等との連携・役割分担

1) 我が国の援助活動

JICA は、これまで、同セクターにおいて、無償資金協力「空港保安強化計画」(2013 年度)、「カラチ港及びビンカシム港治安強化計画」(2015 年度) を実施している。いずれも本事業との重複はない。

2) 他援助機関等の援助活動：特になし

(8) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：C

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010 年 4 月公布) 上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

2) 横断的事項：特になし

3) ジェンダー分類：ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

<活動内容/分類理由>協力準備調査の結果、貨物検査装置を導入する本事業では、具体的なジェンダー視点に立った活動が想定されないことを確認。

(9) その他特記事項：特になし

4. 事業効果

(1) 定量的効果

アウトカム（運用・効果指標）

指標名	基準値 (2017 年実績値)	目標値 (2022 年) 【事業完成 3 年後】
ムルタン空港、ファイサラバード空港において国際的要件を満たす安全性を確認後、出発する航空機の割合 (%) (航空便数ベース)	0	100
ムルタン空港、ファイサラバード空港、新イスラマバード空港において国際的要件を満たす安全性を確認後、エアサイドに入場する車両の割合 (%) (車両台数ベース)	0	100
カラチ空港において国際的要件を満たす安全性を確認後、出発する航空機の割合 (%) (航空便数ベース)	1.3	100

(2) 定性的効果：パキスタンにおけるテロ発生リスクの低減。

5. 前提条件・外部条件

- (1) 前提条件：特になし。
- (2) 外部条件：対象地域の治安が大幅に悪化しないこと。

6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

過去の類似案件の実施等において、納品直後は問題なく使用できた導入機材が、現地メンテナンス業者の能力不足等により不具合が生じたことが指摘され、調達据え付け及び運営指導にかかる体制構築までを考慮して案件形成を行うべきであったとの教訓が得られている。本事業では、納入時にメーカーによる初期操作指導及び維持管理指導等を実施し CAA の運営・維持管理能力の向上を図る。

7. 評価結果

本事業は、当国の開発課題・開発政策並びに我が国及び JICA の協力方針・分析に合致し、空港保安機材の整備を通じて空港保安体制の強化、ひいてはテロ発生リスク軽減に資するものであり、SDGs ゴール 16「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会の促進」に貢献すると考えられることから、事業の実施を支援する必要性は高い。

8. 今後の評価計画

- (1) 今後の評価に用いる指標
 - 4. (1) ～ (2) のとおり。
- (2) 今後の評価スケジュール
 - 事後評価 事業完成 3 年後

以 上